

保育の実施及び
保育環境の充実に関する要望書

令和3年1月20日

苫小牧市法人保育園協議会

令和3年1月20日

苫小牧市長 岩倉 博文 様

苫小牧市法人保育園協議会
会長 遠藤 明代

保育の実施及び保育環境の充実に関する要望書

昨年2月から世界中を震撼させた感染症ウイルス COVID-19 の北海道での大流行により、苫小牧市内の保育園でも発症者が出て休園せざるを得なかった事業所もありましたが、緊急事態宣言下も休むことなく保育園を開園し事業継続をまいりました。

緊急事態宣言発令時には、保護者へ自粛の理解を得て家庭保育に協力して頂きながら、職員たちは休むことなく、施設内のあらゆる遊具や床壁の消毒に追われ、疲弊困憊する毎日でした。

また、政府が感染予防のために訴えている「密を避けて」に対しては、医療従事者や介護従事者と同じく、乳幼児をお預かりしている保育園という施設では、すぐそばに居て子どもたちに寄り添っていることが必要とされる職種ですので、接触を避けることは皆無であり、逆に「密」でいることが必然的に求められる職場現状であります。

この約一年間は、施設長は園児並びに職員の体調管理を実施把握し、職員はいつも緊張感を持ちつつ子どもたちが不安にならないように、息苦しいマスクの下でも笑顔絶やさず換気や湿度管理、衛生管理に気を抜かず保育を実施してまいりました。

感染者があった保育園におきましては、苫小牧市担当課から、迅速に対応を実施して頂いたことに対し、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

今後も感染症ウイルス COVID-19 の感染予防のため、継続した緊張と不安のなかで保育事業を運営するにあたり、保育士たちも安心して保育に従事できるように今後とも苫小牧市の支援並びに情報共有できるような体制を強化構築して頂きたく、お願い申し上げます。

今回は、市長におかれましては、新型コロナ感染拡大の対応でご多忙のなか、貴重なお時間を割いていただきお礼を申し上げますとともに、苫小牧市法人保育園協議会の切なる願いを予算に組み入れて頂きたく、今後も保育園の円滑な運営にお力添えをお願い申し上げます。

令和3年度 保育の実施及び保育環境の充実に関する要望書

1 特別保育事業への補助並びに障害児保育加算費の増額の要望について

(1) 特別保育事業の補助について

特別保育事業に取り組む法人保育園は、毎年度事業実施に関しては事業費の補填をしながら運営をしています。

延長保育事業・地域子育て支援事業・病児保育事業・一時預り事業・休日保育事業などの特別事業実施に於ける事業費の確保は勿論のことに併せて保育士の業務負担や年々多くなり、実質赤字事業となっています。(資料別紙添付)

特別事業を先んじて実施している施設に対し、人的配置や処遇などを含め安定した運営ができるよう、苫小牧市として更なる補助を要望します。

(2) 障害児保育加算について

近年各施設における発達支援の必要なお子さんが増加の傾向にあるのは、既にご承知かと思いますが、各園の障害児加算対象の子どもさんは、保護者の就労の関係もあり8時間から11時間保育を受けております。

しかし、補助額は障害児2人に対し約8時間分となっていて、一人4時間を下回る金額となっています。(資料別紙添付)

障害児は各クラスに分散されて保育を受けていますので、それぞれか残りの4時間を園から補填して子どもさんの保育を実施しています。

また、延長保育や休日保育においても障害児保育の人件費が補助されることなく実施しているのが現状です。

2. 保育所への研修費補助の実施について

国の保育指針が改訂になり、その中の文言に「ひとりひとりが快適に健康で安全な保育」を実現してゆく、インクルーシブ（共に育ちあう）保育は「ひとり、ひとりの個性を認め、共に過ごす・・・」とあり、まさに「保育園も教育の領域に対し計画案について研究検討ならびに自己研鑽のための研修を重視」することは、子どもの発達保障をする上で十分な知識や学習意欲を維持するためにも、継続した研修は欠かせないところであります。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の関係であらゆる研修が中止になりましたが、今後は園内での研修の充実及び全国レベルの研修等において、タブレットを利用したリモート研修などを受講する機会の多くなり、各園のIT環境を整備することが求められる時代となり、研修スタイルが大きく変化しようとしています。

この研修費補助については、昨年は回答書のなかに「今後検討する」との明示がありましたので、今年度こそ、苫小牧市私立幼稚園連合会と同じように令和3年度予算のなかで

実施に向けての予算の実現化を強く要望いたします。

3 5歳児相談事業の強化及び5歳児健診の実施について

本会の数年間に渉る要望事項のひとつである「5歳児健診実施」に対し、28年度より5歳児健診に代わる「5歳児相談事業」が開始され、相談実績を挙げられているところですが、相談件数は昨年に引き続き、対象年齢児童の1.7%ほどの相談実績となっています。

近年は、就学対象児に発達支援が必要な児童が増加傾向にあり、益々、早期の健診実施が必要不可欠となっています。

気づきがある保護者の方はチェックシートを付けてみて気になった場合は受ける方も多くなっていますが「3歳児健診」とは取り組みが違い、相談件数の低さから、多くの発達支援が必要な子どもたちが、そのまま就学児健診期を迎えています。

本会が、平成22年度から「5歳児健診」を強く要望してまいりました理由のひとつに、保護者の方がお子さんの特性に気づきを早く持って頂き、子育てに自信を持って接して頂き「困ったときには、誰かに相談できる」という支援の道筋を提供する手立てのひとつとして考えて頂けたらとの思いでこの要望を8年間に渡りお願いしてまいりました。

現在の5歳児相談事業の充実を図るとともに、「福祉都市宣言」を標榜する苫小牧市として、速やかに、実現できるよう「5歳児健診」の実施体制の計画を検討して頂きたいと思います。

4 苫小牧市感染症対策マニュアルの策定と各事業者への周知について

中国武漢から始まったといわれる感染症ウイルス COVID-19 の感染力は大変驚異的で、今や世界中が戦々恐々と感染者数や死亡者数に慄いているのが現状です。

しかしながら、感染対策は日々変化しつつあり、各事業所が独自にマニュアルを作成しても国や北海道、苫小牧市と連動して作成をしなければならない状況となっています。

全国の中には市がモデルマニュアルを作成し、実施する施設はそれを指針として策定にあたっているところもありますので、是非苫小牧市でも、感染症マニュアルに「COVID-19」への対応などに丁寧で共有できる情報を早急に発信して頂きたいと思います。

苫小牧市の担当課の方たちは多忙を極めていることと思いますが、私たち事業所が右往左往しないでこの感染症に機敏に迅速に対応できるよう「苫小牧市版の感染症マニュアル」を策定し、今後もしばしばご指導頂きたく、お願い申し上げます。